

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292100076		
法人名	株式会社アルテディア		
事業所名	グループホームあかね		
所在地	静岡県富士宮市小泉2302-7		
自己評価作成日	令和5年1月25日	評価結果市町村受理日	令和5年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2292100076-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 2月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様、職員ともに、笑顔が絶えない施設づくりを目指している。コロナ禍で、面会・外出の制限はありながらも、ご利用者様やご家族様が「あかねに着てよかった」と思えるよう、日々ご利用者様に寄り添うことで、思いを感じそれを実現化するよう努めている。また、一般的に弱い医療面については、訪問診療・訪問看護と連携することで、24時間365日緊急時の対応を可能としている。希望があれば看取りまで対応し、ご利用者様を囲み、ご家族様や医療機関と協力体制を密にして、その方らしさを大切に最期の瞬間を送れるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、グループホーム、デイサービス、有料老人ホーム、居宅介護事業所の複合施設を運営しているが、地域の利用者が多いため、災害対応や外出支援の車の手配等、家族の理解や協力が得られている。デイサービスや有料老人ホームからの入居者がいて職員間の連携も取れている。事業所の周りには神社やコンビニエンスストア、食事処等があり、駐車場で外気浴や散歩もできる。職員間の情報共有がとれ、管理者は職員が働きやすい環境作りと長く働いてもらえるよう業務改善に尽力し、記録の見直しや夜勤の業務を減らす等の取り組みは効果が出ている。法人は資格取得支援制度や教育環境の整備にも取り組んでいる。コロナ禍でも状況によって面会や外出を継続し支援している。更に、通常よりお便りの情報や写真を増やして家族に送付し、喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あかねに関わる全ての人が笑顔で幸せを共感できる介護を目指す」をモットーとし、職員に浸透するよう努めている。	現在の管理者がGHあかねに着任時に理念を変更している。理念は事務所や各ユニットの目立つ場所に掲示され、理念に基づきモットーと個人目標を設定している。個人目標は年に2回の人事考課で達成度を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地区の季節の行事や防災訓練などは積極的に参加するよう努めている。今年度は、施設内コロナ発生もあり、自粛している。	自治会に加入し、定期的に広報が届けられ、地域の行事にはできるだけ参加している。今年度はどんど焼きに出かけ、7月の天王祭で神輿くぐりを行う予定でいる。地域の防災訓練などにも今後できるだけ参加の意向がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年は地域の小中の体験学習や福祉高校の実習は積極的に受けている。近年は、新型コロナの件もあり、自粛している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた意見は、会議などで報告し、生かしていけるように努めている。しかし、今年度はGHあかね自体でコロナが発生が続き、未開催。	今年度は職員の入退職やコロナの発生、業務改善等で運営推進会議は開催できなかった。次年度からは自治会長、民生委員、家族、利用者等の参加で活動・事故報告を行い意見交換を行う計画を進めている。	事業所の活動を広く知ってもらい、運営推進会議の参加者から広く意見を求め、地域密着の事業所となるように意見を運営に活かせるよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して事業所の実状をお知らせし、意見をいただくようにしている。また、不明な点は担当者に聞くよう心掛けている。	市役所担当課へ直接出向き、職員と課題や疑問点など相談できる良好な関係である。法人本部の運営指導部が介護保険法でわからないこと等、行政に確認して事業所に伝えてくれる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間声を掛け合い、常に意識するよう心掛けている。会議を通し、研修で学んできたことは、職員全体に周知しケアに生かすよう努めている。	指針は玄関に掲示しマニュアルはファイルに入れ職員がいつでも見られるようにしている。委員会は管理者、主任、リーダー、計画作成者と参加できる職員でほぼ毎月行われている。研修は外部を利用しながらZOOMで得た内容を全職員に周知し、今後は内部研修も充実させていく予定でいる。	

静岡県(グループホームあかね)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修等、学びの場へ積極的に職員の参加を促し、得た情報は会議などを通し全職員へ周知。また、日頃から職員間声掛けし、虐待に繋がらないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	あかね会議内での勉強会で学ぶようしている。会議に参加できない職員も資料を配布等している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に重要事項説明書を使って入居時に説明。ご利用者様、ご家族様の不安や疑問などについては、契約の場だけではなく、日頃から積極的に会話するようし、理解が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話やメールなどで連絡を密に行い、面会の際はこちらから声をかけ意見を伺うよう努めている。また、会議などを通し、職員に伝え、推進会議等で市職員や地域に向けて伝えるよう努めている。	毎月お便りを家族に送付しているが、コロナ禍で面会制限があるため、写真のサイズを大きく、増やして発送している。電話連絡やメールは家族にこまめに行い、連絡の窓口は管理者で統一している。年に1回家族アンケートを法人本部から発送している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	あかね会議、管理者会議、カンファレンスなど意見や提案を発言できる場を設けている。また日頃の申し送りでも共有し、反映に繋げている。	職員が参加する「あかね会議」は月に1回午前中に行っている。朝礼、夕礼はフロア毎に行い、参加できない職員には書面で申し送りをしている。4GH管理者会議は月に1回ZOOMで行われている。管理者は介護職を兼務しているので職員とのコミュニケーションが取れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談や、普段の会話など職員と積極的にコミュニケーションをとることで働きやすい職場となるよう努めている。また、個々の事情等も考慮し、精一杯働けるような環境づくりを続けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員にあった内容の研修を受講するようし、個々のレベルアップに繋がるよう努めている。また、人事考課により自身の能力を見直す機会も設けることを継続している。		

静岡県(グループホームあかね)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH部会や県の社会福祉協議会の研修などに積極的に参加するよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでのご利用者様の生活歴など事前に聞きながらこちらから声をかけリラックスしていただけるよう配慮している。不安や要望に出来る限り応えられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様と十分に話し合い、不安や要望を聞くようにしている。また入居後も面会時や、電話メール連絡などで積極的に話す機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時や初期段階でご利用者様やご家族様にとって何が一番見極めるよう対応し、場合によっては他のサービスの情報も提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の様子を見ながら声を掛け合い、また今までの生活パターンや認知症の状況を把握することで、個々に合わせた自立支援を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子等を、随時お話しすることで情報を共有するようし、常にその時の状態を知っていただくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時やその後の会話等で馴染みの場所や人に対する情報を入手し、かわりが継続できるよう支援することを継続している。現在はコロナ渦もあり、可能な限りの支援になっている。	コロナの状況によってお便りに面会の約束を載せ、家族に協力、実施してもらっている。利用者の個々の要望にあわせ、自宅に立ち寄ったり、コンビニエンスストアに買い物に出かけたり、利用者の知人のお好み焼き屋に食事に出かけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	普段の様子などから食事の場所や普段の過 ごし方、外出などは配慮するように心掛けて いる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の 経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に応じて相談や支援に応じるよう心掛 けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日々の生活の中で表情や会話、行動などか らくみ取り、出来るだけ意に沿うよう心掛けて いる。	入居前に利用者の生活歴を詳しく伺い、時 には年表を書いてもらったり、環境を聞いたりし て利用者のバックグラウンドを把握している。 発語ができなくなると表情を見て、モニタリ ング、カンファレンスを行って対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	ご家族様やご利用様より以前の様子を聞 きながら、アセスメントを充分に行い、把握す るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	カンファレンスや申し送り帳、普段の会話か ら情報を共有し、日々のケアに反映するよ う、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	ご家族様、ご本人様の要望を聞きながら、現 状に必要なサービスや目標スタッフと話し合 い、プランを作成するようにしている。	介護記録は職員に詳しく書くように指導し、計 画作成者が介護記録を見てモニタリングを 行っている。カンファレンスは職員会議で更新 者や変化のある方から行っている。医師の意 見を聞いて家族に相談し介護計画を作成して いる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やカンファレンス、申し送り帳など で情報を共有し、介護計画への反映に努め ている。		

静岡県(グループホームあかね)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況により、出来ること出来ないことを説明し、必要に応じて他のサービスとの連携を図るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様の好みや得意なもの、生活歴などから必要に応じて地域資源を活用し、その方らしい生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に説明の上、可能な限り自施設の協力医に変更していただくようしている。協力医外のご利用者様については、ご家族様が受診を行い、その際は必要に応じて受診表を作成し、医師に様子を伝えている。	協力医は月2回往診、24時間対応で利用者の体調の相談ができる。他科の初期対応や専門医の紹介、薬の処方の相談もできる。入居前のかかりつけ医は家族対応で受診の際には利用者の日頃の様子を記入した受診表を持参して、対応を記入してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で訪問看護と連携を取り、状態の報告を行っている。必要に応じて医師との連携も図り、ご利用者様の状態観察に努める。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはご家族様や医療機関と連絡を密にとり、状況の把握に努め、その時にあった選択が出来るよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご利用者様やご家族から意向を確認している。その後は状態を見ながら、医師や訪問看護と話し合いの機会を持つことでチームとして支援していくようにしている。	入居時に事業所の指針を利用者、家族に説明し同意書を得ている。状態の変化がみられると医師は家族に説明し、事業所は家族に意向を再確認し、医師、訪問看護師と共に話し合い、支援を行っている。職員は看取りの経験は充分あり、緊急時の対応、看取りの研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や訓練などに参加することで、突発的な事柄に対応できるようにしている。また、常時確認できるようマニュアルを用意している。		

静岡県(グループホームあかね)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を隣接の事業所合同で行い、意識を高めている。また、職員が地域の防災訓練へ参加するよう心掛けている。	年に2回デイサービス、有料老人ホームと合同で訓練を行って協力体制を作っている。グループホームは垂直避難も行い、実施後のレポートは消防署と本部に提出している。備蓄や台帳は前回の外部評価で指摘されたので準備している。	連絡網は作成してあるが訓練を行っていないので実施予定である。夜間想定訓練も行う予定である。地域の協力も得たいと考えている。長期停電対策は法人本部と検討し、対策を講じられるよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の性格を把握しながら、信頼関係を持てるよう、言葉かけや対応に努めている。	接遇の研修は特に力をいれている。利用者の生活歴、性格を把握して、言葉かけ、話声のトーンに配慮している。課題のある部分は、管理者が個別に注意し、意識させている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、ご利用者様が思いや要望などを伝えやすい環境づくりに努め、出来る限りご利用者様の意思決定を尊重するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースに合わせることを心掛け、出来る限りご希望に添えるような暮らしになるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や服装などを選んでいただくように心がけている。アクセサリーをつけるなどその方に合ったおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切りや盛り付け、食器拭きなど出来ることを職員と一緒に出来るよう支援している。	職員が見守りながら、エプロンを身につけて、野菜を切ったり、盛り付けをしている利用者の姿が見られた。利用者の誕生日には 希望を聞き、鰻をテイクアウトしたり、コロナの状況を見て職員が下見の上、ランチに出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に食事水分量を記録し、また、月に1回体重測定をすることで、変化に気付けるよう努めている。		

静岡県(グループホームあかね)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い、見守りや介助で口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、ご利用者様の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を心掛けている。	個々の排泄パターンを把握して、トイレでの排泄を支援している。夜間もポータブルトイレを利用したりと可能な限りトイレへの介助をしている。リハビリパンツから布パンツになった利用者もいる。自立の利用者には、トイレの場所を迷わないよう見守り一緒にいく支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用いて、ご利用者様の状態を把握し、食べ物や運動、水分補給などに気を配っている。状態に応じて医師と相談して薬などで対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様に合わせた時間や間隔で極力入浴していただけるよう声掛けを行っている。	週2~3回、1日3~4人 午後入浴の支援をしている。現在の利用者は風呂好きな方が多く、ゆっくり入浴してもらえるように、ゆず、ミカンの皮を入れたり季節感を出して楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜静かな環境づくりに努め、明るさなども個々にあわせ調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬情を保管し、変更があったときは申し送り等で共有するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合った行事やレクリエーション、誕生日月にはお好きなもの食べに行くなど個々にあった楽しみが提供できるよう心掛けている。		

静岡県(グループホームあかね)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など、その方の希望に応じて行っている。また、ご家族様との外出も積極的に勧めている。	施設の敷地内の散歩、また近くのコンビニエンスストアへ買い物、地区のゴミ出し場へゴミ出し、近くの無人販売所や神社へ出かけている。併設のデイサービスの車で出かけたり、誕生日に外出を希望する利用者は職員とコロナの状況をみながら外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に応じて、所持したい方はご家族様と相談の上、確認しながら所持できるよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現状、ご利用者様からの希望は見られないため、支援していないが、今後そのような希望がある方については、適宜対応するよう努める。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物を置いたり、季節の貼り絵や手作り品を飾るなどしている。また、湿度・室温はこまめに確認し、加湿などにも努めている。	加湿機は所々にあり、濡れバスタオルを手すりに掛けることもある。床や手すりの消毒はこまめに行っている。利用者はマスクをして過ごしている。食堂のテーブルの席は一方方向を向くように配慮している。利用者の作品や季節の貼り絵、あかね便りが掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファなどを設置、敷地内でも適宜ベンチを配置することで、ご利用者様同士、時には職員と一緒に談笑出来る場を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様のなじみのものなどを設置することで、過ごしやすく馴染みのある環境にするよう努めている。	各部屋には、大容量の押し入れがあり、布団や利用者の紙オムツ、パット、衣類が整理整頓されている。タンスやドレッサーが持ち込まれた部屋もあり、家族写真や塗り絵等の作品を好きな場所に掲示している。洗面台も設置され、居室で歯磨きや身だしなみを整える利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の動きを把握しながら、ベッドやタンス等配置を考え、変更し過ごしやすい環境作りをしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292100076		
法人名	株式会社アルテディア		
事業所名	グループホームあかね		
所在地	静岡県富士宮市小泉2302-7		
自己評価作成日	令和5年1月25日	評価結果市町村受理日	令和5年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2292100076-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 2月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様、職員ともに、笑顔が絶えない施設づくりを目指している。コロナ渦で、面会・外出の制限はありながらも、ご利用者様やご家族様が「あかねに着てよかった」と思えるよう、日々ご利用者様に寄り添うことで、思いを感じそれを実現化するよう努めている。また、一般的に弱い医療面については、訪問診療・訪問看護と連携することで、24時間365日緊急時の対応を可能としている。希望があれば看取りまで対応し、ご利用者様を囲み、ご家族様や医療機関と協力体制を密にして、その方らしさを大切に最期の瞬間を送れるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あかねに関わる全ての人が笑顔で幸せを共感できる介護を目指す」をモットーとし、職員に浸透するよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地区の季節の行事や防災訓練などは積極的に参加するよう努めている。今年度は、施設内コロナ発生もあり、自粛している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年は地域の小中の体験学習や福祉高校の実習は積極的に受けている。近年は、新型コロナの件もあり、自粛している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた意見は、会議などで報告し、活かしていけるように努めている。しかし、今年度はGHあかね自体でコロナが発生が続き、未開催。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して事業所の実状をお知らせし、意見をいただくようにしている。また、不明な点は担当者に聞くよう心掛けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間声を掛け合い、常に意識するよう心掛けている。会議を通し、研修で学んできたことは、職員全体に周知しケアに生かすよう努めている。		

静岡県(グループホームあかね)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等、学びの場へ積極的に職員の参加を促し、得た情報は会議などを通し全職員へ周知。また、日頃から職員間声掛けし、虐待に繋がらないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	あかね会議内での勉強会で学ぶようになっている。会議に参加できない職員も資料を配布等している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に重要事項説明書を使って入居時に説明。ご利用者様、ご家族様の不安や疑問などについては、契約の場だけではなく、日頃から積極的に会話するようにし、理解が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話やメールなどで連絡を密に行い、面会の際はこちらから声をかけ意見を伺うよう努めている。また、会議などを通し、職員に伝え、推進会議等で市職員や地域に向けて伝えるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	あかね会議、管理者会議、カンファレンスなど意見や提案を発言できる場を設けている。また日頃の申し送りでも共有し、反映に繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談や、普段の会話など職員と積極的にコミュニケーションをとることで働きやすい職場となるよう努めている。また、個々の事情等も考慮し、精一杯働けるような環境づくりを続けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員にあった内容の研修を受講するようにし、個々のレベルアップに繋がるよう努めている。また、人事考課により自身の能力を見直す機会も設けることを継続している。		

静岡県(グループホームあかね)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH部会や県の社会福祉協議会の研修などに積極的に参加するよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでのご利用者様の生活歴など事前に聞きながらこちらから声をかけリラックスしていただけるよう配慮している。不安や要望に出来る限り応えられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様と十分に話し合い、不安や要望を聞くようにしている。また入居後も面会時や、電話メール連絡などで積極的に話す機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時や初期段階でご利用者様やご家族様にとって何が一番か見極めるよう対応し、場合によっては他のサービスの情報も提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の様子を見ながら声を掛け合い、また今までの生活パターンや認知症の状況を把握することで、個々に合わせた自立支援を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子等を、随時お話することで情報を共有するようし、常にその時の状態を知っていただくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時やその後の会話等で馴染みの場所や人に対する情報を入手し、かわりが継続できるよう支援することを継続している。現在はコロナ渦もあり、可能な限りの支援になっている。		

静岡県(グループホームあかね)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の様子などから食事の場所や普段の過ごし方、外出などは配慮するように心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に応じて相談や支援に応じるよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で表情や会話、行動などからくみ取り、出来るだけ意に沿うよう心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご利用者様より以前の様子を聞きながら、アセスメントを充分に行い、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスや申し送り帳、普段の会話から情報を共有し、日々のケアに反映するよう、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様、ご本人様の要望を聞きながら、現状必要なサービスや目標スタッフと話し合い、プランを作成するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やカンファレンス、申し送り帳などで情報を共有し、介護計画への反映に努めている。		

静岡県(グループホームあかね)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況により、出来ること出来ないことを説明し、必要に応じて他のサービスとの連携を図るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様の好みや得意なもの、生活歴などから必要に応じて地域資源を活用し、その方らしい生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に説明の上、可能な限り自施設の協力医に変更していただくようにしている。協力医外のご利用者様については、ご家族様が受診を行い、その際は必要に応じて受診表を作成し、医師に様子を伝えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で訪問看護と連携を取り、状態の報告を行っている。必要に応じて医師との連携も図り、ご利用者様の状態観察に努める。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはご家族様や医療機関と連絡を密にとり、状況の把握に努め、その時にあった選択が出来るよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご利用者様やご家族から意向を確認している。その後は状態を見ながら、医師や訪問看護と話し合いの機会を持つことでチームとして支援していくようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や訓練などに参加することで、突発的な事柄に対応できるようにしている。また、常時確認できるようマニュアルを用意している。		

静岡県(グループホームあかね)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を隣接の事業所合同で行い、意識を高めている。また、職員が地域の防災訓練へ参加するよう心掛けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の性格を把握しながら、信頼関係を持てるよう、言葉かけや対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、ご利用者様が思いや要望などを伝えやすい環境づくりに努め、出来る限りご利用者様の意思決定を尊重するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースに合わせることを心掛け、出来る限りご希望に添えるような暮らしになるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や服装などを選んでいただくように心がけている。アクセサリをつけるなどその方に合ったおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切りや盛り付け、食器拭きなど出来ることを職員と一緒に出来るよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に食事水分量を記録し、また、月に1回体重測定をすることで、変化に気付けるよう努めている。		

静岡県(グループホームあかね)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い、見守りや介助で口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、ご利用者様の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用いて、ご利用者様の状態を把握し、食べ物や運動、水分補給などに気を配っている。状態に応じて医師と相談して薬などで対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様に合わせた時間や間隔で極力入浴していただけるよう声掛けを行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜静かな環境づくりに努め、明るさなども個々にあわせ調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬情を保管し、変更があったときは申し送り等で共有するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合った行事やレクリエーション、誕生日月にはお好きなもの食べに行くなど個々にあった楽しみが提供できるよう心掛けている。		

静岡県(グループホームあかね)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など、その方の希望に応じて行っている。また、ご家族様との外出も積極的に勧めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に応じて、所持したい方はご家族様と相談の上、確認しながら所持できるよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現状、ご利用者様からの希望は見られないため、支援していないが、今後そのような希望がある方については、適宜対応するよう努める。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物を置いたり、季節の貼り絵や手作り品を飾るなどしている。また、湿度・室温はこまめに確認し、加湿などにも努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファなどを設置、敷地内でも適宜ベンチを配置することで、ご利用者様同士、時には職員と一緒に談笑出来る場を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様のなじみのものなどを設置することで、過ごしやすく馴染みのある環境にするよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の動きを把握しながら、ベッドやタンス等配置を考え、変更し過ごしやすい環境作りをしている。		